

# 特許協力条約

発信人 日本国特許庁（国際調査機関）

出願人 京セラ株式会社 様 あて名 〒612-8501 日本国京都府京都市伏見区竹田鳥羽殿町6番地		PCT 国際調査機関の見解書 (法施行規則第40条の2) [PCT規則43の2.1]	
		発送日 (日.月.年)	21.11.2017
出願人又は代理人 の書類記号 17P01549W00		今後の手続については、下記2を参照すること。	
国際出願番号 PCT/JP2017/032658	国際出願日 (日.月.年) 11.09.2017	優先日 (日.月.年) 21.10.2016	
国際特許分類 (IPC) Int.Cl. H01L23/12(2006.01)i, H01L23/02(2006.01)i, H01L23/13(2006.01)i, H05K1/02(2006.01)i, H05K1/18(2006.01)i			
出願人 (氏名又は名称) 京セラ株式会社			

1. この見解書は次の内容を含む。 <input checked="" type="checkbox"/> 第I欄 見解の基礎 <input type="checkbox"/> 第II欄 優先権 <input type="checkbox"/> 第III欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解の不作成 <input type="checkbox"/> 第IV欄 発明の単一性の欠如 <input checked="" type="checkbox"/> 第V欄 PCT規則43の2.1(a)(i)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明 <input type="checkbox"/> 第VI欄 ある種の引用文献 <input type="checkbox"/> 第VII欄 国際出願の欠陥 <input type="checkbox"/> 第VIII欄 国際出願についての意見 2. 今後の手続 国際予備審査の請求がされた場合は、出願人がこの国際調査機関とは異なる国際予備審査機関を選択し、かつ、その国際予備審査機関がPCT規則66.1の2(b)の規定に基づいて国際調査機関の見解書を国際予備審査機関の見解書とみなさない旨を国際事務局に通知していた場合を除いて、この見解書は国際予備審査機関の最初の見解書とみなされる。 この見解書が上記のように国際予備審査機関の見解書とみなされる場合、様式PCT/ISA/220を送付した日から3月又は優先日から2月のうちいずれか遅く満了する期限が経過するまでに、出願人は国際予備審査機関に、適当な場合は補正書とともに、答弁書を提出することができる。 さらなる選択肢は、様式PCT/ISA/220を参照すること。
--

見解書を作成した日 13.11.2017			
名称及びあて先 日本国特許庁 (ISA/JP) 郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	特許庁審査官 (権限のある職員) 秋山 直人 電話番号 03-3581-1101 内線 3551	5D	5893

## 第 I 欄 見解の基礎

1. 言語に関し、この見解書は以下のものに基づき作成した。
  - 出願時の言語による国際出願
  - 出願時の言語から国際調査のための言語である \_\_\_\_\_ 語に翻訳された、この国際出願の翻訳文 (PCT規則12.3(a)及び23.1(b))
2.  この見解書は、PCT規則 91 の規定により国際調査機関が許可した又は国際調査機関に通知された明らかな誤りの訂正を考慮して作成した (PCT規則 43 の 2.1(b))。
3. この国際出願で開示されたヌクレオチド又はアミノ酸配列に関して、以下の配列表に基づき見解書を作成した。
  - a.  出願時における国際出願の一部を構成する配列表
    - 附属書C/ST.25テキストファイル形式
    - 紙形式又はイメージファイル形式
  - b.  国際出願とともに、PCT規則13の3.1(a)に基づき国際調査のためにのみ提出された、附属書C/ST.25テキストファイル形式の配列表
  - c.  国際出願日後に、国際調査のためにのみ提出された配列表
    - 附属書C/ST.25テキストファイル形式(PCT規則13の3.1(a))
    - 紙形式又はイメージファイル形式(PCT規則13の3.1(b)及びPCT実施細則第713号)
4.  さらに、複数の版の配列表又は配列表の写しが提出され、変更後の配列表又は追加の写しに記載された情報が、出願時における配列表と同一である旨、又は出願時における国際出願の開示の範囲を超えない旨の陳述書の提出があった。
5. 補足意見：

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についてのPCT規則43の2.1(a)(i)に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求項	2-8	有
	請求項	1	無
進歩性 (I S)	請求項	2-5	有
	請求項	1, 6-8	無
産業上の利用可能性 (I A)	請求項	1-8	有
	請求項		無

2. 文献及び説明

文献1：JP 11-214556 A (京セラ株式会社) 1999.08.06, [0020]-[0027], 第1図 (ファミリーなし)

文献2：JP 2012-227887 A (日本オクラロ株式会社) 2012.11.15, [0033]-[0037], 第2図 & US 2012/0269522 A1, [0061]-[0065], FIG.2 & EP 2515623 A2

文献3：日本国実用新案登録出願 55-009791 号 (日本国実用新案登録出願公開 56-112969 号) の願書に添付した明細書及び図面の内容を撮影したマイクロフィルム (三洋電機株式会社) 1981.08.31, 4-5 ページ, 第3, 4図 (ファミリーなし)

文献4：JP 2003-152124 A (京セラ株式会社) 2003.05.23, [0012], 第1図 (ファミリーなし)

請求項1に係る発明は、国際調査報告で引用された文献1より新規性、進歩性を有しない。

文献1 ([0020]-[0027], 第1図) には、第1、第2線路導体 (14) と、該第1、第2線路導体との間に形成され、絶縁基体 (12) よりも誘電率が低い凹部 (16) とを備えた高周波基体 (11) が記載されている。

請求項6-8に係る発明は、国際調査報告で引用された文献1より進歩性を有しない。

第1、第2線路導体の間に接地導体層を設けたり、高周波パッケージや高周波モジュールを構成したりすることは、当業者であれば容易になし得ることである。

請求項2-5に係る発明は、国際調査報告で引用された何れの文献にも開示されておらず、新規性、進歩性を有する。

特に、第1、第2線路導体の第1、第2分離部に第1、第2コンデンサを有する高周波基体が、第1分離部の端部から第2分離部の端部の位置まで、第1、第2線路導体と並行に延びる凹部を備える点は、何れの文献にも開示されていない。